

「財務会計Ⅱ」学習指導案

日 時	平成27年11月6日(金) 第3・4校時
対象クラス	第3学年6組会計科20名 (男子8名、女子12名)
場 所	特別教室棟4階 会計科実習室
指 導 者	指導教諭 木庭寛幸

1 単 元 名 第5編 財務諸表の活用 第14章 財務諸表の活用

使用教科書 実教出版「財務会計Ⅱ」

2 単元について

(1)教材観

高等学校における簿記会計の学習と言えば、財務諸表の作成を中心に学ぶことがほとんどである。しかし将来、生徒たちがいかなる職種に就いた場合にも役立てることができる知識を得るためには、財務諸表を分析する力も求められる。その証拠に、最近ROE（自己資本利益率）やIFRS（国際会計基準）という言葉や、経済紙で目にしない日はほとんどない。財務諸表分析（経営分析）は、コンサルティング業務を請け負う会社でも行われており、企業にとっては、将来の財政状態や経営成績を予測するために必要不可欠な手法である。

(2)系統観

1年次および2年次の「簿記」及び「財務会計Ⅰ」「財務会計Ⅱ」において、複式簿記の基礎基本である財務諸表の作成方法を中心に学習した。また、上場企業のほとんどは連結会計を行っているため、3年次から連結会計の基礎基本を学んできた。これまで学習した内容の総合的な学びとして、財務諸表分析の基本を学んでいく。

(3)生徒観

簿記会計に対して高い興味・関心を持ち、積極的に取り組む生徒が多く、復習の実施状況も概ね良好である。財務諸表分析に対しても興味は高いが、実際に企業の財務関連数値を用いて分析する機会は、これまでにほとんどなかった。数値だけを追い求めることのないように注意し、簿記会計が実学であることを再認識させる必要がある。

(4)指導観

- これまでの学習内容が実務に直結することを意識させる内容である。
- 各企業の有価証券報告書については、個々のウェブページからではなく、金融庁「EDINET」の報告資料を用いて行うことにより、企業間比較ができるように留意する。
- 学習指導要領に示されている科目の目標にある「会計情報を提供し、活用する能力と態度を育てる」観点からビジネスの場面（投資会社での投資先の決定の会議）を想定し、グループでの言語活動を意図的に設定する。
- 職業会計人として必要な資質・能力についても考察する場面を設ける。

(5)インクルーシブ教育の視点から

会計科の習熟度別授業展開の応用コースであり、簿記会計を得意としている生徒が多い。しかし、授業内容の難易度が高いため、理解力の高い生徒ばかりに注目することなく、じっくり考えることで答えを導き出す生徒についても配慮を行いたい。

また、言語活動等のグループ活動においてお互いが意見や考えを出し合える雰囲気づくりや人の意見を尊重しながらしっかり聞く態度についても留意する。

3 単元の目標と評価規準

(1) 目標

- ア 財務諸表分析の意義や役割および種類、計算構造、分析比率それぞれの持つ意味を理解する。
- イ 実数分析、比率分析の両者を使い分け、効果的な財務諸表分析を行うことができる。
- ウ 比率分析の各種類と意味を正確に把握し、どのような場面でどの比率を用いればよいかなど、より正確な分析ができる。
- エ 分析した数値や指標等を活用して、企業グループを適切に評価することができる。
- オ 職業会計人として必要な資質や能力について考察することができる。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・企業グループの現状を把握するためには、どのようにすればよいかの高い関心を持ち、有価証券報告書などにより、その学習を積極的に進めようとしている。 ・株価に関する判断材料や企業評価尺度としての企業価値に関心を持ち、その学習を積極的に進めようとしている。 ・職業会計人としての必要な資質や能力について積極的に探究しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な財務分析を行うことを目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、適切に判断し、表現している。 ・分析した数値や指標を基に、多角的に判断しながら自分の考えを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連結情報から情報の持つ意味を読み取り、整理している。 ・財務諸表の活用法に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、適切な財務分析を行うことを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業グループの分析するための基礎的・基本的な知識や手法を身に付け、その役割や意義について理解している。 ・企業価値を評価する計算方法や基礎的な評価法を理解している。

4 指導・評価計画

■第5編 財務諸表の活用

第14章 財務諸表の活用（全10時間）

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 企業グループの現状把握 | 2時間 |
| 2. 株価の判断材料 | 2時間 |
| 3. 企業価値の評価 | 2時間 |
| 4. 財務諸表を用いた演習・発表 | 10時間（本時はその8・9時間目） |

次	時	学習活動	評価の観点				評価基準・【評価方法】
			関	思	技	知	
1 (6時間)	1	<p>企業グループの現状把握（2時間）</p> <p>■企業評価の意義を理解する。</p> <p>■連結貸借対照表、連結損益計算書、連結キャッシュフロー計算書から得られる連結情報を分析する手法を学び、企業価値の基礎的な評価方法を習得する。</p>	○				<p>関心・意欲・態度【ワークシート】 連結情報の役割やその活用の意義に関心をもっている。</p> <p>知識・理解【確認テスト】 企業価値を評価する基礎的な評価方法を理解している。</p>
	2	<p>株価の判断材料（2時間）</p> <p>■株式価値を判断する4つの株価指数について理解する。</p> <p>■実際の企業の財務諸表を使い、4つの株価指数を活用して、株価が割安かどうかを判断する。</p>		○			<p>知識・理解【確認テスト】 株式価値を判断する4つの株価指数を理解している。</p> <p>思考・判断・表現【ワークシート】 4つの株価指数を活用して、分析した数値から株価の価値を評価している。</p>
	3	<p>企業価値の評価（2時間）</p> <p>■企業を評価する次の尺度について時代の変遷を踏まえその特徴を理解し、整理する。(ROA ROE 企業価値)</p> <p>■キャッシュ・フローと現在価値について理解を深め、キャッシュ・フロー分析を行う。</p>					<p>知識・理解【ワークシート】 企業価値について理解している。</p> <p>知識・理解【確認テスト（教科書 p166）】 資料を基に計算式を示し、企業価値を算出している。</p>
2 (10時間)	4	<p>財務諸表を用いた演習・発表(10時間)</p> <p>■この単元やこれまで学んだ知識を活用して3社の財務諸表から情報を読み取り、多角的に分析する。</p>			○		<p>技能【ワークシート】 財務諸表分析ができるように財務諸表から必要な情報を読み取り、整理している。</p>
		<p>■3社の財務諸表を分析した結果をもとに最良な投資先を決定する。</p> <p>■グループでの話し合い活動（マイクロディベート）を基に自分の考えを多角的に検討する。</p>		○			<p>思考・判断・表現【観察】 自分の考えや意見をクラスメイトに論理的に説明している。</p>
		<p>■前時のマイクロディベートでの討論結果を踏まえ、再度最良な投資先を検討し、決定する。</p>		○			<p>思考・判断・表現【ワークシート】 これまで学んだ知識や技術を活用し、合理的な根拠を基に投資先を決定している。</p>
		<p>■これまでの学習を振り返る。</p> <p>■職業会計人としての必要な資質や能力について個人またはグループで考察し、ワークシートにまとめる。</p>	○				<p>関心・意欲・態度【ワークシート】 この単元で学んだことや企業の不祥事事例から職業会計人として必要な資質・能力について探究しようとしている。</p>

5 本時の学習（3限目）

(1) 本時の目標

マイクロディベートや意見発表において、具体的な根拠を示しながら自分の考えや意見を論理的・効果的に説明（自己表現能力）でき、他者の意思等を的確に理解（他者理解能力）できる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	主な発問・指示	指導上の留意点と評価	備考
予鈴	◆接客 8 大用語の唱和を行う。		・代表生徒が前に立ち、掛け声とともに実施する。	
導入 5分	投資会社の社員として、自分の財務分析の結果や他の社員の分析結果や意見等を参考にし、 て最良な投資企業を決定しよう。			
	授業の流れとねらいを確認する ・本時の活動のねらいと学習内容を確認する。 ※本時の活動の詳細は別紙参照	・財務諸表の数値を分析し、最も将来性のある企業を選択しましょう。	・資料の有価証券報告書については、①一部を抜粋した資料であること、②決算期日は企業間で異なっているが、その点は考慮しなくてよい、という2点を確認させる。	
展開 40分	投資先の意思決定 ・最良の投資先企業について、個人氏名が書かれた④マグネットをホワイトボードに掲示することによって、意思決定を行う。	・前時までの分析結果をもとに意思決定しよう。	・ワークシートに具体的な数値や根拠等を示し、意思決定することに留意させる。	ワークシート
	グループでの財務分析 ・担当する企業の財務分析数値（前時までに計算した財務諸表分析の各数値）を班員とともに確認する。	・深く分析するために担当する会社を決めグループで分析します。	・自班が担当する企業の強みを明らかにするために、グループ内で意見を交換させる。	
	マイクロディベートの実施 ・A社を題材に、1回目の討議を行う。 肯定派主張 2分 否定派主張 2分 フリートーク 3分 判定・まとめ 2分 ※立場を変え3回のマイクロディベートを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【言語活動設定のねらい】 マイクロディベートを通して、自分の意見を論理的・効果的に伝える力や、相手の考えを的確に理解する力を養う。 </div>	・多角的に分析するためにマイクロディベートを行います。 ・1回目は肯定者はA社、否定者はB社、審判はC社が行うように指示する。	・A社、B社、C社の担当者3人で新たなグループを編成する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評価：思考・判断・表現（観察） B基準 担当企業がどのような状況にあるかを、財務諸表分析の数値を用いて考え、説明することができる。 A基準 B基準に加え、どの分析指標が重要であるかを判断し、説明や反論を行うことができる。 (B基準に達していない生徒への手立て) 財務分析の数値をもう一度確認させ、学習内容に関連付けて説明できるように支援する。 </div>	
まとめ 5分	まとめ ・マイクロディベートの内容をワークシートにまとめる。		・次時の学習活動について説明する。	

6 本時の学習（4 限目）

(1) 本時の目標

これまで学んだ知識や技術及びマイクロディベートなど得た情報をもとに、もっとも投資先としてふさわしい投資先を決定することができる。

(2) 本時の展開

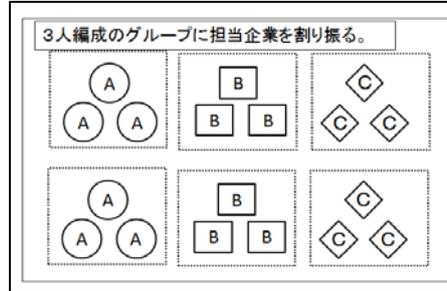
過程	学習活動	主な発問・指示	指導上の留意点と評価	備考
導入 3分	授業の流れとねらいを確認する ・本時の活動のねらいと学習内容を確認する。			
展開 37分	意見の集約と検討 ・前時で出た意見を再度確認し、担当企業の強みを集約し補強する。		・もっともPRしたいポイントを絞り込ませる。	
	最終プレゼンテーション ・A社、B社、C社の代表1人が3分間のプレゼンテーションを行う。	・それぞれの会社のPRポイントをワークシートに記入することを伝える。	・ワークシートにも記入させる時間を十分に確保する。	
	投資先の意味決定 ・マイクロディベートや最終プレゼンテーション等からどの会社が投資先として最も魅力的だったかを各自意思決定する。ホワイトボードに名前を張り付ける。	・会社として投資先にもっともふさわしいのは？	・3社を客観的に評価し、根拠を示し意思決定することに留意させる。 ・ワークシートに記入させる。	ワークシート
	ペアトーク・グループトーク ・自分の考えを説明する。 言語活動設定のねらい 学んだ知識を活用して、分かりやすく説明することで財務分析の意義や役割について理解を深める。	・最初の意思表示と2回目の意思決定を比較しながら話し合ひましょう。	評価：思考・判断・表現（ワークシート） B基準 様々な情報をもとに根拠を示しながら、投資先を決定している。 A基準 B基準に加え、3社の特徴を十分に理解し、根拠をもとに投資先を決定している。 (B基準に達していない生徒への手立て) ワークシートの記述内容や教科書を参考にしながら投資先を決定するように支援する。	
まとめ 10分	本時のまとめ	・財務分析の意義は？	・数名を指名しながら、生徒の財務分析から意思決定までを価値付けする。 ・職業会計人としての求められる資質や能力についても説明する。	
	次回の予告	・次回は自己評価をします。	・次回は、ルーブリックを用いて、自己評価させる。	

※参考資料

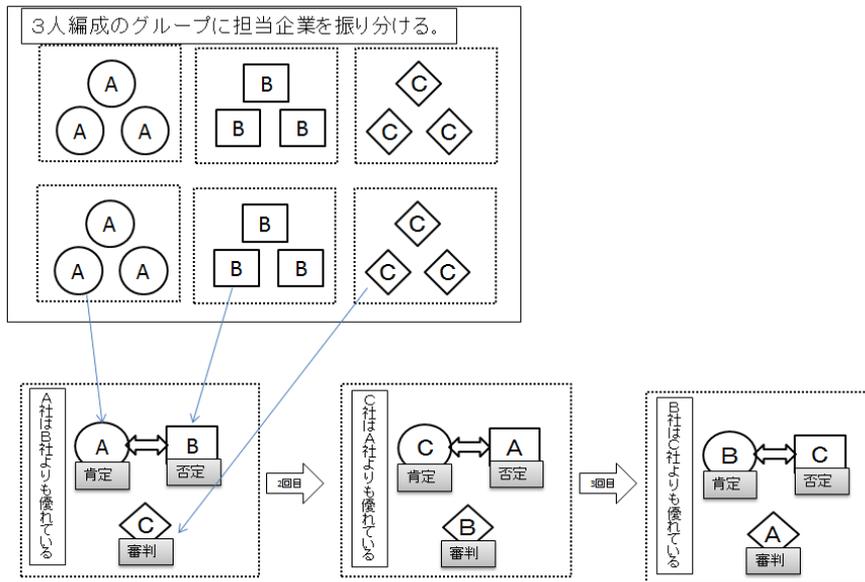
各企業の有価証券報告書（金融庁のEDINET「金融商品取引法上に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム」を利用）

3 限目

- (1) 現時点で各自の考える投資先を意思表示する。(ホワイトボードに④のマグネットを掲示)
- (2) 3人一組のグループをつくる。
- (3) それぞれのグループに、担当企業 (A社、B社、C社) を割り振る。



- (4) グループで担当企業の強みについて、財務諸表分析に関する数値をもとに話し合う。
- (5) グループを入れ替え、A社、B社、C社の担当者それぞれが、自社の強みについてPRする。各社のPRにはマイクロディベートを用い、肯定者・否定者・審判の役割に分かれて討論する。



マイクロディベート

- (6) ワークシートに意見を記入する。

4 限目

- (7) (2)のグループに戻り、マイクロディベートで出た意見を集約し、主張を補強する。
- (8) A社 → B社 → C社の順に、代表者が最終プレゼンテーションを行う。聞き手は、ワークシートに意見を記入しながら発表を聞く。
- (9) すべての主張を聞いたうえで、どの会社が投資先として最も魅力的だったかを各自意思表示する。(ホワイトボードに④のマグネットを掲示)
- (10) 授業の初めに選んだ企業から、他の企業に投資先を変更した生徒を中心に、意見発表を行う。
- (11) ワークシートに意見を記入する。
- (12) 次回の予告

以前授業で使用した「評価のための判断基準表 ルーブリック」に、授業を終えての自己評価を記入し、自らの学びを確認する。